

eラーニングメンタ資質に対する学習者とメンタの重視度の違い

Learners and Mentors Differently Evaluate the Importance of eLearning Mentor Competence

富永 敦子
Atsuko TOMINAGA

杉浦 真由美
Mayumi SUGIURA

向後 千春
Chiharu KOGO

早稲田大学
Waseda University

〈あらまし〉メンタ自身がeラーニングメンタの資質として何を重視しているのかを明らかにするために、メンタ資質尺度による調査を行った。その結果、学習者を対象とした調査(富永ほか2013)では「学習者への指導」「学習者への対応」「優しい言葉づかい」「仕事の遂行」の4因子が抽出されたのに対し、メンタでは「学習者への配慮」「フィードバック」「仕事の遂行」「学習者の状況把握」の4因子が抽出された。また、学習者がメンタよりも「学習者への指導」を重視しているのに対し、メンタは「優しい言葉づかい」「仕事の遂行」を重視していることが明らかになった。

〈キーワード〉 eラーニング メンタ 社会人教育 遠隔教育

1. はじめに

富永ほか(2013)はeラーニングメンタに必要とされる資質を明らかにするために、メンタ資質尺度31項目を作成し、私立X大学通信教育課程のeラーニング学習者に対して調査を行った。因子分析の結果、「学習者への指導」「学習者への対応」「優しい言葉づかい」「仕事の遂行」の4因子15項目が抽出された。「学習者への指導」は指導スキルを示しており、「学習者への対応」は支援態度に関する項目が中心であった。

では、メンタ自身はメンタにどのような資質が必要と考えているのだろうか。本研究では、メンタに対してメンタ資質尺度による調査を行い、その因子構造を明らかにする。また、学習者とメンタのメンタ資質重視度の差を明らかにする。

2. 方法

私立X大学通信教育課程のメンタ143人を対象に、メンタ資質尺度31項目を用いて、メンタ資質に関する調査を行った。「メンタの資質として、以下の項目の内容をあなたはどの程度重視しますか」という教示文を示し、5件法により回答させた。回答期間は1週間とし、大学のLMSのアンケート機能を用いて実施した。

3. 結果

有効回答数97人(有効回答率67.83%)の内訳は女性48人、男性49人であった。メンタの経験年数は1年目19人、2年目15人、3年目17人、4年目10人、5年目13人、6年目4人、7年目4人、8年目以上15人であった。平均年齢は37.78歳($SD=10.37$)であった。

3.1. メンタが考えるメンタ資質の因子構造

因子分析(最尤法,プロマックス回転)を行い、スクリープロットの急落から4因子を抽出した。因子数を4に指定し、負荷量が.40未満の項目および.30以上の多重負荷の項目を除外しながら因子分析を行った結果、4因子16項目が得られた(表1参照)。下位項目の内容から、第1因子は「学習者への配慮」、第2因子は「フィードバック」、第3因子は「仕事の遂行」、第4因子は「学習者の状況把握」と命名した。

3.2. 学習者とメンタの重視度の比較

学習者での因子「学習者への対応」「学習者への指導」「優しい言葉づかい」「仕事の遂行」をメンタがどのくらい重視しているのか、さらに学習者とメンタとの重視度の差を明らかにするために、これらの因子の下位項目の平均値を下位尺度得点とし、学習者とメンタについて対応なしのt検定を行った。学習者の下位尺度得点は富永ほか(2013)のデータ($n=113$)を用いた。その結果、「学習者への指導」「優しい言葉づかい」「仕事の遂行」における差はいずれも有意であった($t(208)=4.54, p<.001$; $t(208)=5.24, p<.001$; $t(208)=2.79, p<.001$)。「学習者への指導」はメンタよりも学習者のほうが高く、「優しい言葉づかい」「仕事の遂行」は学習者よりもメンタのほうが高かった。「学習者への対応」は有意ではなかった($t(208)=1.01, ns$) (図1参照)。

4. 考察

メンタと学習者とは、メンタ資質の因子構造が異なった。メンタの因子構造は、メンタに対す

表1 因子分析結果

			F1	F2	F3	F4
学習者への配慮 ($\alpha=.878$)	8	学習者が落ち込まないような言葉遣いができる	.951	-.114	.096	-.205
	3	「上から目線」のような言動をしない	.745	-.043	.166	-.199
	30	学習者の質問や意見に共感を示すことができる	.726	.014	-.070	.126
	1	やる気ができるような対応ができる	.653	.065	-.222	.208
	21	良い点を積極的にほめることができる	.623	.027	-.008	.155
	28	親しみやすい言葉遣いができる	.578	.218	-.146	-.022
	20	学習を助けるようなアドバイスができる	.515	-.032	.229	.171
フィードバック ($\alpha=.878$)	17	質問や感想に対してこまめにフィードバックできる	-.138	.963	.115	-.056
	12	質問や感想に対して必ずフィードバックできる	.138	.757	-.017	-.057
	27	質問や感想に対して迅速なフィードバックができる	.168	.656	.043	.082
仕事の遂行 ($\alpha=.715$)	16	教員の代行としてサポート役に徹することができる	-.035	-.084	.843	.147
	19	教員に指示された仕事を正確に行える	.172	.103	.683	-.095
	5	専門的な見地からのアドバイスができる	-.133	.237	.406	-.005
学習者の状況把握 ($\alpha=.768$)	2	学習者の学習の進捗状況を把握できる	-.150	-.089	.049	.825
	26	学習者の理解の程度を把握できる	.131	-.016	-.050	.696
	18	学習者のレベルにあわせた対応ができる	.019	.151	.187	.537
全16項目 ($\alpha=.912$)		累積因子寄与率(%)	43.99	53.79	61.82	68.32
		因子間相関	-			
			.620	-		
			.474	.491	-	
			.585	.621	.423	-

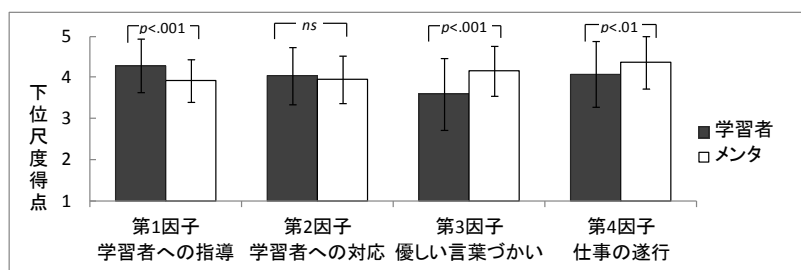


図1 学習者とメンタの重視度の比較

る指導の影響を受けていると推測される。X大学では、メンタに対して、週3回以上のアクセス、学習意欲の喚起、学習が遅れがちな学生のフォロー、正確な指示、公平な対応などの指導を行っている。メンタたちはこれらを意識しながら業務を行っており、その結果、「学習者への配慮」「フィードバック」「仕事の遂行」「学習者の状況把握」という因子構造になったと推測される。

また、学習者とメンタとではメンタ資質に対する重視の度合いにも差があった。メンタは「優しい言葉づかい」を学習者よりも重視しているが、学習者は「学習者への指導」をメンタよりも重視している。学習者はメンタに対して、専門的な内容をわかりやすく説明したり、間違いを適確に指摘してほしいと考えているのである。したがって、メンタ資質育成コースでは、このような指導スキルを高めるためのプログラムが必要である。

5. 結論

メンタを対象にメンタ資質尺度による調査を行った。その結果、1)「学習者への配慮」「フィードバック」「仕事の遂行」「学習者の状況把握」の4因子が抽出された、2)学習者が「学習者への指導」を重視しているのに対し、メンタは「優しい言葉づかい」「仕事の遂行」を重視していることが明らかになった。

謝辞

本研究は、平成26~30年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(基盤研究(C) No.26350336))「eラーニング学習者のニーズを反映させたメンタ育成プログラムの開発」、および早稲田大学人間総合研究センター一般研究プロジェクト「グローバルeラーニングメンタ育成プログラムの設計と開発に関する研究」の助成を受けた。

引用文献

富永敦子, 杉浦真由美, 向後千春(2013)eラーニング学習者が求めるメンタ資質とは何か. 日本教育工学会第29回全国大会講演論文集, 163-166